

フィリピン復興 1日も早く

総社市とAMD Aが職員派遣

古城さんは約1週間、パナイ島で医師の通訳などの医療後方支援活動に従事し、岩本さんはマニラで約1か月間、支援活動の調整などに関わる予定。市とAMD A、県立大学は今年9月、災害支援活動などについての3者連携協定を結んでおり、市職員の被災地への派遣は、締結後初めて。

2人は18日朝、市民ら約100人の見送りを受けて市役所を出発し、昼過ぎにJR岡山駅から東京に向かった。

古城さんはこれまでも地震や洪水などの災害支援活動の経験があるが、「大きすぎる被害の映像に胸が締め付けられた。一日も早く被災者に支援を届けたい」とし、岩本さんも「自分の目で現地の様子を見て被災者の声を聞き、必要なことに取り組み」と話した。

医師の通訳など支援

総社市と国際医療NGO「AMD A(アムダ)」は、台風30号で大きな被害を受けたフィリピンの支援のために、女性職員2人を派遣することを決め、総社市教育委員会の学校教育課外国語指導助手の古城デイジーさん(58)とAMD A職員で看護師の岩本智子さん(29)が、マニラに出発した。



出発前に取材に応じる岩本さん(左)と古城さん(JR岡山駅で)